

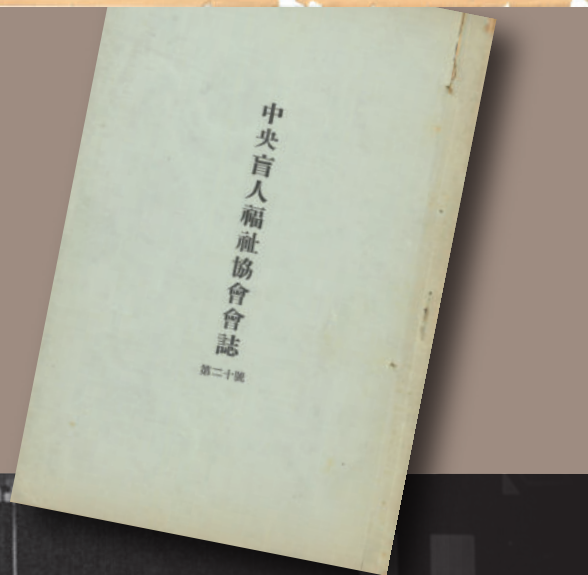
編・解題—新藤透／野口武悟 【全七巻・別冊】

中央盲人福祉協会機関誌

—昭和戦前期 視覚障害者全国組織のあゆみ



主催 京都府 京都盲人協会
主唱 中央盲人福祉協会
後援 内務省 文部省 拓務省



危機の時代における
視覚障がい者たちの
経験をたどる

中央盲人福祉協会（会長・渋谷栄一、副会長・大久保利武／新渡戸稲造）は、1929年日本で初めて設立された「盲人」の全国組織であった。機関誌『中央盲人福祉協会誌』（1934～1944年）には、失明軍人対策、盲人保護事業、戦時体制下の翼賛動員、トラホームや近視の予防と治療、弱視教育の必要や盲教育義務化の主張、盲導犬や読本器（トーキングブック）に関する新機軸など、視覚障害者をめぐる多面的な記事が一貫して掲載され続けた。

近年、視覚障害をめぐる教育、職業、福祉、社会参画、文化等の「変遷」に関心は高まり、あらためてその営為を振り返る時代に立ち至った。「変遷」を現在につなぎ、障害観と施策の飛躍が求められるいま、歴史を考える上でも欠かせない戦前と戦時のあゆみを明瞭に描き出す基礎資料。

中央盲人福祉協会機関誌

—昭和戦前期 視覚障害者全国組織のあゆみ

本書では通覧することが非常に困難だった会の機関誌から、閲覧困難でかつ資料所蔵さえ未確認であった戦前期から戦時下にわたる視覚障害者全国組織の活動をつぶさに伝える小冊子・リーフレット・ポスターまでをアーカイブする。

点字出版物・図書館やトーキング・ブックなどの記事も掲載、視覚障害者用資料や施設の展開・受容の過程を追うことができ、図書館情報学の面からも貴重な文献。



〈おすすめ先〉
公共・大学図書館、資料館、特別支援学校、障害者団体・施設、社会福祉史・特別支援教育史・図書館情報学・近現代日本史研究者など

編・解題—新藤透（國學院大學）／野口武悟（専修大学）

推薦—岸博実（日本盲教育史研究会事務局長）
造本—A5判・並製・総約2,100頁
揃価—77,000円（配本毎・別冊のみ分売可）
資料提供—大阪府立大阪北視覚支援学校／京都府立盲学校／日本点字図書館ほか

【第一回配本】2020年8月 配本揃価21,000円 ISBN978-4-909680-99-0
第一巻（301頁）『中央盲人福祉協会誌』1～4号（1934年10月～〔35年11月〕）
第二巻（236頁）『中央盲人福祉協会誌』5～7号（1936年3月～37年4月）
別冊（68頁）ISBN978-4-910363-02-8（別冊のみ分売可2,500円）
〈特別附録資料2〉『日本眼衛生協会50年の歩み』（日本眼衛生協会、1981年）
* 解題、推薦文

【第二回配本】2021年1月 配本揃価20,000円 ISBN978-4-910363-00-4
第三巻（324頁）『中央盲人福祉協会誌』8～10号（1937年9月～38年5月）
第四巻（251頁）『中央盲人福祉協会誌』11～13号（1939年3月～40年2月）

【第三回配本】2021年7月 配本揃価36,000円 ISBN978-4-910363-01-1
第五巻（294頁）『中央盲人福祉協会誌』14～16号（1940年5月～41年3月）
第六巻（327頁）『中央盲人福祉協会誌』17～20号（1941年4月～44年7月）
第七巻（約310頁）
〈特別附録資料1〉
『盲人福祉事業について』（中央盲人福祉協会、〔発行年未詳〕）
『全国盲人保護事業会議報告書（第二回）』（同上、1934年）
『全国失明防止会議報告書（第二回）』（同上、1934年）
『失明の主なる原因とその予防法』（同上、1934年）
『中央盲人福祉協会趣意書／会則／概要／役員』（同上、1936年）
『盲人保護協議会報告書（第五回）』（同上、1939年）
『読本器について』（同上、〔1939年か〕）
（新組）『読本器に就て』（盲人用読本器レコードより、〔1939年か〕）
『盲人文化展覧会（紀元二千六百年奉祝）』（同上、1940年）
『盲人遺蹟顕彰録（紀元二千六百年奉祝盲人福祉記念会）』（同上、1940年）
『我邦に於ける盲導犬』（同上、1941年）
『序にかえて』（『我邦盲導犬の進軍』同上、1944年）
「全国視力保存デー（京都）ポスター」
* 総目次細目

※収録内容は変更する可能性があります。

関連書のご案内

- 『社会福祉関係書誌集成—戦前戦後期』近代書誌懇話会編【全5・別巻】揃価120,000円
- 『岩手の保健』大牟羅良生誕100周年記念 北河賢三解説【全14巻+別冊】揃価255,000円
- 『満洲引揚げ文化人資料集』西原和海編・解題【全4巻】揃価92,000円
- 『図書の選択と整理法—満洲国における彌吉光長』新藤透編・解題【全1・別巻】揃価15,800円



■『岩手の保健』全巻書影

Kanazawa Bunkokaku
金沢文圃閣
〒920-0867 金沢市長土塀2-16-30
Tel 076-261-8884 Fax 233-3111
□書店様へ…ありがとうございます
直接小閣までお申し込みください
図版はすべて本書より
価格は税別 051/09/4000

近・現代の「盲人」たちがどのように生き、社会とどのように交わってきたかを探るうえで、欠かせない第一級資料を本分野第一人者・岸博実氏の協力を得て一挙に復刻する待望にしてはじめての試み！

推薦—岸博実
金沢文圃閣

社会事業から福祉へ―転換の手ざわり―

岸博実(きしひろみ) / 日本盲教育史研究会事務局長

わが国、近・現代の盲人たちがどのように生き、社会とどのように交わってきたかを探るうえで、欠かせない資料群がある。各盲学校や施設・団体の公文書、点字等による刊行物、国・地方の行政文書、さらに個人の体験文から口承まで、幅は広い。

近年、視覚障害をめぐる教育、職業、福祉、社会参画、文化等の変遷に関心が高まっている。点字発行物の翻刻が進みつつある。活字刊行物の「目次集録」は在るが、『中央盲人福祉協会会誌』の全巻を閲覧したくとも、その所蔵先探しに苦労すると思はしび聞いてきた。この企画を歓迎する所以である。

中央盲人福祉協会の結成は1929年、会誌創刊は1934年、第二十号は1944年、戦時下10余年の視覚障害者をめぐる数値や思潮や運動を通観できる。

トラホームや近視の予防と治療、弱視教育の必要や盲教育義務化の主張、盲導犬や読本器(トキングブック)に関する新機軸、失明軍人対策、盲人保護事業、戦時体制下の翼賛動員など、多岐にわたる貴重な資料が蘇る。

近世盲人史に関する連載もある。ヘレン・ケラーの初回来日に関する記録も豊富だ。戦前は「視力保存デー」と呼ばれ、次いで「眼の愛護デー」に変わった活動もたどれる。戦後、日本眼衛生協会へと改称・転換した後に刊行された『50年のあゆみ』も収載される。

大きく俯瞰すれば、「福祉」という用語の歴史、社会事業から福祉に転換してきた足どりの検証・吟味にも寄与するだろう。昭和戦前は、何を踏まえて存立し、戦後の何をどこまで準備したのか。障害観と施策の飛躍が求められる今こそ問い直さねばなるまい。

図書館・資料館、障害児学校・大学、障害者団体・施設、各研究者の書架に、ぜひ！ □

二十世紀前半 視覚障害者略年表

Table with 2 columns: Year and Event. Covers events from 1905 to 1948, including national surveys, school openings, and international visits.

※小原二三夫編「盲人文化史年表」より



我邦に於ける盲導犬

Table listing names and titles of figures in the history of guide dogs, such as 三木良英 and 原一少.

原文 この前は三年前下橋主人役としていたときだったので、今日は私主人役をさせていただきます。本日盲導犬の研究會を催すに就きまして、御迷惑をお蒙りいたしましたところ、皆様には御苦勞中にも拘りませんが、御答禮出度をおいさまして誠にありがとうございました。



東京會館に於けるヘレン・ケラー女史歓迎會

「盲人」界を牽引していた人たちの多くの論考、視覚障害者に関する教育や福祉などの研究、点字図書館や公共図書館の障害者サービスに関する記事など戦前・戦時の視覚支援現場における実践・内容情報が満載にして豊富。「福祉」という用語の歴史、社会事業から福祉に転換してきた足どりの検証・吟味にも寄与する。

総目次(抄)

- 我が国の点字図書館事業 斎藤百合(櫻雲会主事)
盲人保護法案提出の経過 木村柳太郎(東洋点字新聞主筆)
奈良県盲人開眼診療実施に就て 多田儀一
点字出版事業に就て 中村京太郎(点字大阪毎日主筆)
盲教育の現状と其の改善策 田崎仁
失明軍人の保護と再教育 森清克(大分県立盲学校長)
大陸より日本の盲界を顧る 大村善永(元横浜訓盲院教諭)
盲人文化展覧会の記 平田宗行
国民優生法と先天性眼疾 高野六郎(日本医療団理事/中央盲人福祉協会理事)
点字大阪毎日を通じて見たる盲人社会事象 烏居篤治郎(京都府立盲学校教諭)
戦時体制と盲教育制度 室井庄四郎(神戸市立盲学校長)
盲人の聖業翼賛に就いて 森清克(大分県立盲学校長)
聖戦完遂と盲兒童の訓育 樋口護一(前大阪府立盲学校長)
失明傷痍軍人更生の記録 伊藤勲(岐阜盲学校鍼技科在学)
再起を誓ひ盲学校に学ぶ 片山銑三(神奈川県立盲学校教員)
死んだつもりで教壇に立つ 若松幸雄
五十軒の得意先を案内する盲導犬 若松幸雄
〈我邦盲導犬の進軍〉
まえがき
フロードと共に 若杉幸男
軍用犬係の兵隊さん 安部米吉
よき戦友 小椋広衛
盲導犬に関する所見 梶田宇三郎
訓練中の感想 平田宗行
中央盲人福祉協会会誌自第11号至第20号総目次
中央盲人福祉協会昭和19年度歳入歳出予算

私は昨夏朝鮮經由滿洲北支の主要都市に於ける保護事業の實情を視察して来た。視察を企圖する直接の動機は、横濱訓盲院を辭職して閑居をなさしめる少年時代を通した滿洲でもう一度見たこと、一つにはハーバートフォース入學の志望を拒絶せよと云った様な雅氣たふよりなものであつても、私の内奥には支那事變の激化に伴ひ、幾人か戦死に参加し、その幾人か支那義勇の戦死を聞き、心を苦しむ焦燥に似たものが絶えず間もなく立ち上つたのである。同行者は私と扶輪社員に似たものが絶えず間もなく立ち上つたのである。同行者は私と扶輪社員に似たものが絶えず間もなく立ち上つたのである。同行者は私と扶輪社員に似たものが絶えず間もなく立ち上つたのである。

國民優生法は昭和十六年七月から實施せられて居るが、此の法律の運用が徹底的なるまでには尙當時を要するであらうと思ふ。中央地方の優生審査委員會も拙つたし、地方廳には專任の技術官も置かれることになつたし、又厚生政策の民族發展上に必要な所も段々理解されて來るであらうから、還から予國民優生法の實施が望まれることを期して居るのである。本法制定に當つて一部の人間から懸念されたのは、かくの如き法律の制定によつて國民間に産兒制の思想が増大せらるることである。

解題目次

戦時體制と盲教育制度
はじめに
第一章 戦前の「盲人」のおかれた状況
第一節 近代化と「盲人」の職業的自立生活の危機
第二節 慈善に依拠する「盲人」への教育と福祉
第二章 中央盲人福祉協会の設立経緯と事業
第一節 中央盲人福祉協会の設立経緯
第二節 中央盲人福祉協会の目的と事業内容
第三節 中央盲人福祉協会のその後
第三章 『中央盲人福祉協会会誌』の特徴と点字図書・点字図書館関係記事
第一節 点字図書館関係記事
第二節 トキング・ブック関係記事
第三節 点字図書館関係記事
おわりに

破壊されたレンズの世界

地球はレンズのドローマ
透明な水晶球の現象體だのに
住む私は暗い
地球にも縦溝があるんだらうか
鈴ふり鈴をふり合ひながら
私の行かない透明な水晶球の世界で
妻と赤坊が楽しんでたわわてる
私の行けない透明なレンズの世界
間と光の距離は遠い
妻と赤坊が楽しんでたわわてる

